

# 令和6年度 校内研究

甲州市立勝沼小学校

## 1 学校課題

勝沼地区は、学校と地域との結びつきが強く、保護者は学校教育に深い理解と関心を持ち、様々な活動に協力的である。児童数は129名で、どの学年も人数は20数名であるが、社会の変化に伴い、児童一人ひとりの個性は多様化し、学習意欲や学習能力の個人差も大きい。

## 2 研究主題

**学習者主体の授業づくりをとおした、児童の資質・能力の育成**  
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図りながら～

## 3 主題設定の理由

### (1) 学校教育目標具現化の立場から

本校の学校教育目標は「『かしこい子』を育てる」である。具体目標として「考えて学習する子ども」「強くたくましい子ども」「温もりのある仲間づくりのできる子ども」「真心をもって行動できる子ども」の4つが掲げられている。知・徳・体の調和のある人間性豊かな児童の育成を具現化するために、「知」においては基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着と学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・問題解決能力）の育成が重要である。

### (2) 今日の課題から

これまで、学習指導要領のねらいに沿って、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、校内研究のテーマとして設定し取り組んできた。その結果、教える一斉授業からは脱却し、児童との言葉のやり取りの中で授業を作り上げる場面が多くなってきた。また、昨年度は「新たな学びの姿に向けた授業改善推進事業」の指定を受け、学習者主体の授業づくりに取り組んできた。日頃の授業では、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実等に向けて授業改善に取り組んでいる途中であり、研究の2年目に向けて、以下の課題がある。

- ・探究のサイクルを意識した授業改善がすすんでいる。一方で、児童それぞれが一生懸命まとめたり、表現したりしているが、時間が十分に確保できないことが多い。「情報の収集」場面での効率化を図ることなどをとおして、十分な時間の確保、理解の深まりにつなげていきたい。
- ・「個別最適な学習」に近づけている。しかし、授業の中で「協働的な学習」をどのように組み込んでいくか、十分でないところもある。
- ・『教科の見方・考え方』を取り入れながら、児童の資質能力の向上を図る」という部分に課題が残っている。授業の中で掲示物や積み重ねの中で意識させるなど、今後も研究を続けていきたい。
- ・単元の導入段階から「学習者主体の授業」を展開することで、単元全体として、学習者が主体となって取り組めるよう、さらに研究を深めていく必要がある。

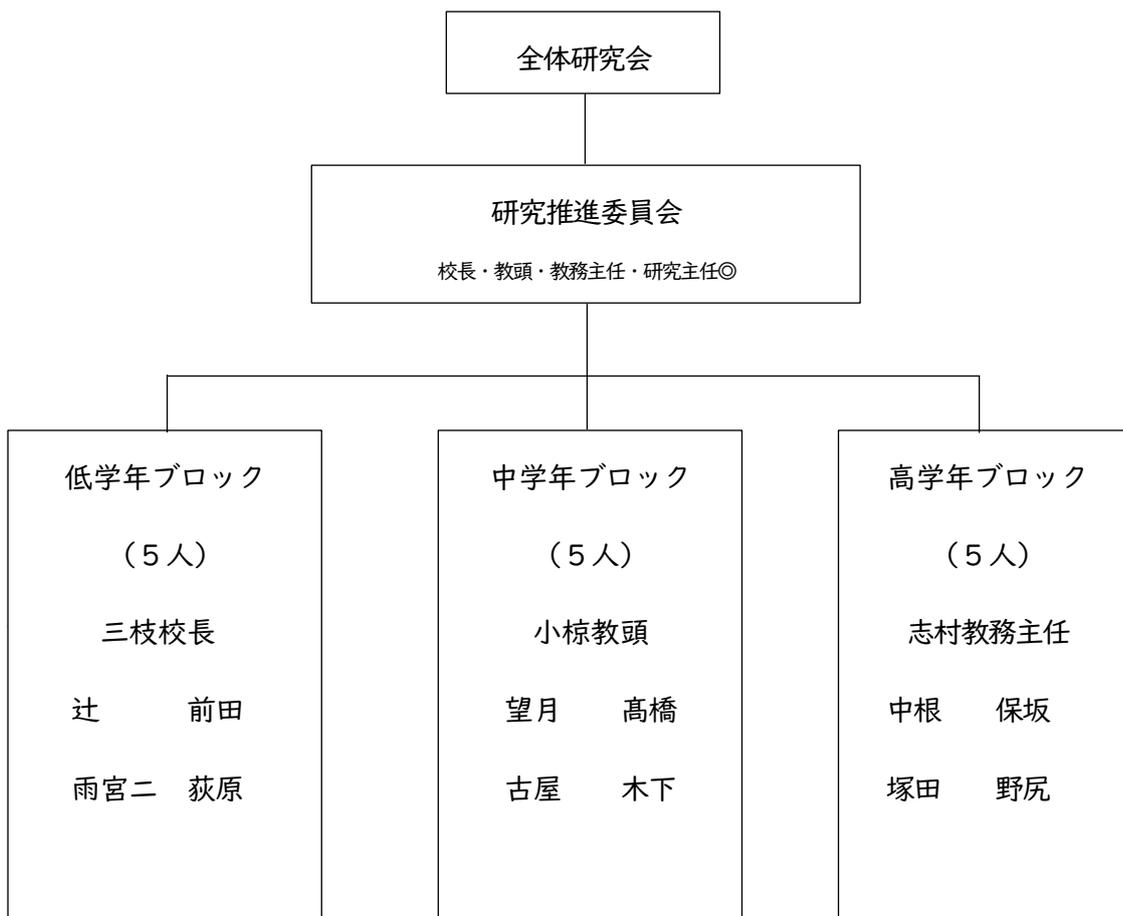
### (3) これまでの本校の研究から

本校は、自ら考え、進んで表現できる児童を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業の工夫と改善について、算数科から各教科へと実践を広げてきた。昨年度はこれまでの研究の成果を生かし、「『甲州市 Teacher's Note』の共通理解と活用」「探求のサイクルを意識した授業実践」「対話活動を仕組む工夫（ICTの活用を含む）」を継続しながら、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着と、身に付けた知識・技能を活用し、自分なりに考えて最後まで諦めないで課題を解決したり、自分の考えを他人に表現したり、新たな問いを見つけて次の学習課題を設定したりする力の育成を目指して研究を進めてきた。今年度は、昨年度の研究成果をベースに、社会科、外国語科を中心に学習者を主体とした授業改善を図っていく。また、各教科の見方・考え方を働かせながら、「個別最適な学習」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることで、本校児童の課題である学習意欲や学習の定着の個人差、自分の考えを他人に表現する力を高められるのではないかと考え、この主題を設定した。

#### 4 研究の具体的内容と方法 【 】内は方法を示す

- ①児童の実態把握と分析（WEBQU・学習アンケート）【ブロック研・全体研での分析】
- ②「学習者主体の授業改善とおした、児童の資質・能力の育成」についての理論研究や学習会【全体研での理論研究・講師招聘による学習会】
- ③「学習者主体の授業改善とおした、児童の資質・能力の育成」に向けた授業研究（研究授業・一人一実践）
- ④ICT 端末の利活用（Google Chat、Google サイトの活用）
- ⑤「協働的な学び」の視点（「ちょいせつタイム」での意見の交流、ICT 端末を用いた他者参照、Chat やサイトを使った交流）
- ⑥「マイプロジェクト学習」の実施  
（授業内で自らの課題に沿った学習の実施、児童が自らの興味関心に沿った課題を選択し、挑戦する時間の設定、各教科の検定を全校で実施）
- ⑦甲州市「夢をかなえる学びのプロジェクト」と連携した研究  
（全体研での理論研究・講師招聘による学習会）  
\*一人一実践の授業改善・指導案作りは個人研究とする。

#### 5 研究組織



## 6 年間研修計画

回	月/日	主 な 内 容	形態	TC 要請
1	4/4	◇昨年度の研究について、今年度の方向性	全体	
2	4/16	◇学校課題、研究主題、年間計画等の概要の決定	全体	
4	5/15	ブロック交流①		
5	5/17	甲州市「夢をかなえる学びのプロジェクト」教育講演会		
6	5/22	◇研究内容・方法について	全体	
7	5/29	◇WEBQUの分析・児童の実態把握①	ブロック	
8	6/5	◇アタックシートの共通理解①	全体	
9	6/21	◇研究授業（予定）	全体	
10	6/28	甲州市「夢をかなえる学びのプロジェクト」教育講演会		
11	7/3	◇学習アンケート①結果と分析	全体	
12	7/17	◇学級づくりアタックシート「2学期に向けて」作成	個人	
13	8/23	◇学習会「学習者主体の授業改善について」	全体	○
14	9/4	◇学習会を受けて	全体	
15	9/18	(◇学習会を受けて)	(個人)	
16	9/25	◇一人一実践授業に向けて	個人	
17	10/2	(◇一人一実践授業に向けて)	(個人)	
18	10/9	◇指導案検討	全体	
19	10/18	◇指導案検討	ブロック	
20	10/23	甲州市「夢をかなえる学びのプロジェクト」教育講演会	全体	
21	10/30	◇WEBQUの分析・児童の実態把握②	ブロック	
22	11/6	◇指導案検討	全体	
23	11/19	研究公開	全体	○
24	11/17	ブロック交流②		
25	12/6	甲州市「夢をかなえる学びのプロジェクト」教育講演会		
26	12/11	◇アタックシートの共通理解②	全体	
27	1/17	甲州市「確かな学力」育成プロジェクト教育講演会		
28	1/31	◇今年度の研究の振り返り	全体	
29	2/5	◇学習アンケート②結果と分析	全体	
30	2/19	◇今年度の研究のまとめ・来年度に向けて	全体	
31	2/26	◇研究紀要作成	個人	
32	3/5	◇CRT 調査の結果を受けて	全体	